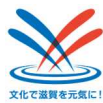




第13 回米原市芸術展覧会目録

米原市・米原市教育委員会



第48回滋賀県芸術文化祭参加事業



beyond2020 プログラム承認事業

第13回米原市芸術展覧会

会 期

平成30年10月6日(土)～10月14日(日) ※ただし、10月9日(火)は休館日

時 間

午前10時から午後6時まで(14日は午後2時まで)

会 場

米原市近江はにわ館 住所：滋賀県米原市顔戸281-1

- ・第1展示室 絵画部門
- ・第2展示室 書部門
- ・かたりベホール 写真部門、彫刻・工芸部門

主 催

米原市・米原市教育委員会

共 催

米原芸術協会・音楽DEまちづくり協会

後 援

朝日新聞大津総局、京都新聞、中日新聞社、BBCびわ湖放送、滋賀夕刊新聞社、株式会社ZTV、米原観光協会、米原市商工会、米原ライオンズクラブ

出品状況

出品総数 247点

<部門別内訳>

(1) 絵画部門	出品数 85点	うち入選数 54点
(2) 彫刻・工芸部門	出品数 32点	うち入選数 30点
(3) 書部門	出品数 33点	うち入選数 30点
(4) 写真部門	出品数 97点	うち入選数 60点

特別出品(敬称略)

(1) 審査員

絵画	gold sight	一居孝明
絵画	光彩を浴びて	山根須磨子
絵画	つらなり	荒牧陽一郎
彫刻・工芸	wish-視一	吉居寛子
書	微風徐來	山本南竹
写真	乱舞	落井俊一

(2) 無鑑査

彫刻・工芸	極	み	柴田郁造
写真	瞬	彩	小坂俊一

絵画部門

審査員 一居 孝明 (新制作協会会員)
山根 須磨子 (独立美術協会会員・日本美術家連盟会員)
荒牧 陽一郎 (画家)

■審査総評

今回、具象系の作品が大半をしめますが、写実的なイメージのものからイラスト風のもの、内面的なイメージのもの等、現代の複雑な時代を反映して表現は多様だと感じました。ベテランと思われる方達の安定したレベルの作品、技術的には物足りないが強い独自性を感じる作品、思う存分楽しく描いていると感じる作品と出会えたことはとても良かったと思います。

現代は、一人一人の価値観が多様化しています。その中でより独自性の高い表現をするには、これまでの絵の常識にとらわれないことが必要でしょう。まず、描きたいという気持ちを大切に、何を表現するのかを確かめながら描いていただければと願っています。(一居審査員)

■市展賞 『揺らぐ』

睡蓮の葉が時間の経過と共に水に沈み込んでゆく様が、葉の円形と茎の線を対比させて見事な構成で描き上げています。丁寧で良く考えられた作画の手順により、重厚な作品になりました。

最後に、上掛けした半透明な白により、水の波紋・水面の表情・水面下の深さが表現されていて素晴らしいと感じました。審査後、ライティングされた光により、いっそう見ごたえのある画面が浮かび上がり、感動しました。(山根審査員)

■教育長賞 『家族』

スナップ写真風の家族図、小さな絵なのに目がいくのはデザイン・構成がとても良く出来ているからでしょう。

アニメ風の天真爛漫かつちょっとコミカル、その瞬間の家族たちの表情に対する作者の表現力はもちろんですが、背景全面の板塀のストライプ模様は家族のエネルギーを象徴するように絵全体に躍動感とリズム感を生みだしています。またそのストレートさをすこし和らげるように背を向けて家族を覗き見ている犬の存在も画面に奥行きと膨らみを与えていて作者の力量を感じる作品です。(荒牧審査員)

■市議会議長賞 『ミスト』

題名は「ミスト」、霧の流れ、動きでしょうか。削り・引っ掻き、時に優しく撫で・盛り上げる、積み重なった下地材とそこに塗りこまれるように沈む色彩、とても美しい絵肌が作られています。

一字一字に向かう気持ちが自然と全体の美につながる写経を見る時のような、また時を刻む岩肌を眺める時のような感覚と似ているのかもしれませんが。見る者に静かに「時・空」を問いかけてくる作品です。(荒牧審査員)

■京都新聞賞 『みずかがみの棚田』

高台からの視点で棚田の風景をじっくりと描いています。俯瞰する視点から捉えたことで、絵の重心が上に上がり、風景空間の広がりを感じます。全体の色彩の扱いも丁寧で、この季節の色や空気感を感じさせています。また、油絵の具の特質を生かし、何層にも重ねられた画面からは、場の雰囲気と作者の息づかいを感じる印象の強い作品です。(一居審査員)

■米原ライオンズクラブ賞 『 リトルアドベンチャー 』

画面をコラージュにより変化させ、複雑な凹凸を利用して制作しています。抽象的な作品ですが、中心から周りへスパイラルする動きが題名とマッチして、作者の意図が感じられます。

色彩も鮮やかで、印象的な作品となりました。

(山根審査員)

選 別	作品題名	氏 名	選 別	作品題名	氏 名
[市 展 賞]	揺らぐ	臼井 洋子	入 選	彼岸花	中川 善雄
[教 育 長 賞]	家族	直井 俊次		香りのプレゼント ランダー	久保田みち子
[市議会議長賞]	ミスト	日比野千恵子		富良野の夏	山家 慶子
[京都新聞賞]	みずかがみの棚田	堀部 八重		アソ原の鳥達 (パネル)	岸川 英雄
[米原ライオンズクラブ賞]	リトルアドベンチャー	杓水 和子		永平寺荘厳	辻川 智江子
[佳 作]	夏の大地	田島 久子		過疎	中口 美知子
[佳 作]	お姉ちゃんといっしょに	大澤 浩子		珊瑚の女王	池滝 総子
[佳 作]	菅山寺幻想	小松原 正二		霊峰、伊吹山	森 見由紀
[佳 作]	ふきのとう 慌てん坊	佐分 百合子		記念日の旅	野村 晴代
[佳 作]	船屋	大橋 みどり		観葉植物とホルン	吉原 菜那
[佳 作]	放課後の教室	坂根 千怜		父子の絆	岡 義子
[佳 作]	晩秋の湖北路	大橋 宅衛門		春先を見つめて	堀内 香里
[佳 作]	さざんか	高山 のどか		初冬の伊吹山	吉田 良策
[佳 作]	船屋	仲西 裕昭		(病める現代)より Energie.help!	川合 時廣
[佳 作]	ケヤキ讃歌	川村 嘉則		水中花	大塚 和子
[佳 作]	木漏れ日の溪谷	堀畑 末一		卓上の静物	今村 栄子
[佳 作]	日光寺の秋	川崎 武司		楽しいお風呂	田中 真理
以下入選	セーヌ川	岡 幸子		AYU ちゃん	土川 豊男
	バラ園のK嬢	馬淵 忠夫		夕日	三輪 春美
	桜	中田 加代子		白睡蓮	安居 健次
	荘厳伊吹	村中 弘治		故郷の春	本田 充
	裸婦	鳶田 敏幸		河口の残雪	竹林 甚一
	湖愁	小泉 英子		道誉桜	岡嶋 康子
	夕日影	西尾 文男		静物とトランプ	渋谷 ふみ子
	長浜曳山祭り	一居 春二		働く車	中川 日出男
	春が待ち遠しい	中尾 繁夫		舞踏	横山 覃子
	紅葉の大木	外山 真紀		風光る	中川 ゆきえ

(絵画部門)

彫刻・工芸部門

審査員 吉居 寛子（日展会員・日本彫刻会会員）

■審査総評

昨年より少し出品数が増えたようですが、陶芸や木彫りの作品がかなり少なくなったように見え、寂しい気もいたしますが、ジャンルの違う作品も出品されるようになったことはうれしいことです。また、それぞれの作品も工夫を重ねられた跡があるのは次回作への楽しみがあります。

自然がいっぱいある滋賀・米原の地であるからこそその作品づくりがまだまだあると思います。来年も楽しみにしております。

■市展賞 『陽射しの中を』

春祭りであろうか太鼓を担いだ人々が神社に通じる橋を渡っている。緻密に画面構成を考えて構成された労作となっています。

切絵スタイルの表現で白と黒の緊張感を、和紙を千切り絵にした色合いの所々に配することで和らげ、人々の日常を生き生きと表した秀作です。

■教育長賞 『故郷（手描き友禅の帯）』

故郷に想いを馳せ、草花や見慣れた風景を扇形や正方形の形の中に治め、細長い帯にデザイン的に配置されたセンスの高さが光ります。

■市議会議長賞 『花入れ あげぼの』

とても美しい形の花器です。釉薬の色合いが一層花を引き立ててくれるそうです。床の間で野々草花や季節のお茶花をこの花器が生かしてくれる品のよい秀作です。

■滋賀夕刊新聞社賞 『童と七福神』

ほのぼのとした、どこか懐かしい作者の個性とでもいうのか独特の表現で、それぞれの神様の持つ特徴を損なわないように上手くまとめられた作品です。

■BBCびわ湖放送賞 『わたしのアシュラ』

左右対象になっていない顔の表現、何かを語っているのか？洗練された技術とセンスで、全て一から手作りされた作品です。これからもテーマのある作品づくりに期待します。

選別	作品題名	氏名	選別	作品題名	氏名
[市展賞]	陽射しの中を	田中 保美	入選	赤秋	山崎 美恵子
[教育長賞]	故郷(手描き友禅の帯)	高木 哲子		抹茶茶碗	枯野 谷口 源太郎
[市議会議長賞]	花入れ あげぼの	谷口 源太郎		姫りんご	和紙ちぎり絵 澤 昭子
[滋賀夕刊新聞社賞]	童と七福神	吉田 佐代子		窓辺の花と水差し	和紙ちぎり絵 澤 昭子
[BBCびわ湖放送賞]	わたしのアシュラ	金 殷淑		絆	吉田 良策
[佳作]	孔雀	室谷 すて美		部屋の遊び	大橋 秀野
[佳作]	生命のつながり	伊戸 清		悟空	杉居 道男
[佳作]	暖簾 柿渋染(草木染)	牧野 靖子		カラー	上野 百合子
以下入選	渦巻	馬淵 忠夫		シャボン玉	上野 百合子
	樹木の癌	深田 忠弘		茜さす	谷村 治子
	孟宗竹加工ボルトスライダ―技法 七輪入起外4本	田川 稔		切子ガラス越しの景色	谷村 治子
	孟宗竹加工ボルトスライダ―技法 夢	田川 稔		暖簾 桜ひらひら(藍・煮染)	牧野 靖子
	糸から作るベスト	林 美重子		カエルの追いかけてっこ	高木 満紀子
	宮女	金 殷淑		宵祭り	高木 満紀子
	紙業	山崎 美恵子		ふくろう何見てる	石本 喜久子

書 部 門

審査員 山本 南竹（日展会友・読売書法会理事）

■ 審 査 総 評

今回から作品の大きさが縦八尺までとなり、出品作品が増加したことは喜ばしいことです。しかし、出品数が増加したために、選外を出さざるを得なくなったことが残念です。作品内容が多様となり、審査に苦慮いたしました。ただ美しく奇麗に整っているだけでなく、作品作りの意図や古典の香りのする作品を選ばせていただきました。半折作品出品の方は、次年度更に大きな作品に挑戦されることを期待しています。

■ 市 展 賞 『 明の詩 』

強弱の筆致をうまく取り入れ、文字群の変化を縦への流れにつなぎ、右行の動きに工夫が見られる。文字の大小で隣行との呼応を生み出し、充実感溢れる秀作である。

■ 教 育 長 賞 『 長塚節のうた 』

古筆の動きを大切にしながら、四行を上手に纏め上げている。潤から渴への自然な変化、渴筆での毛筆の活躍が素晴らしく、静中動を表現した作品です。

■ 市 議 会 議 長 賞 『 租詠詩 』

王鐸の連綿草を取入れた作。文字の大小の変化を自然に取り入れ、縦への流れを意識した明快な作。余白の変化が美しい。

■ 中 日 新 聞 社 賞 『 飲中八仙歌 』

巧妙な筆線と行草を上手に組合せ、右行に変化を持たせながら六行を纏めている。起承転結のある一つの物語を思わせる佳作です。

■ 米 原 市 商 工 会 長 賞 『 姚丞の詩 』

奇を求めず、古典の造形を基にしながら単体で静かに仕上げている。字間や文字内の余白を大切にし、潤渴と大小の変化を巧みに取り入れた秀作。

選 別	作品題名	氏 名	選 別	作品題名	氏 名
[市 展 賞]	明の詩	田中 叡峰	入 選	真摯	高木 哲子
[教 育 長 賞]	長塚節のうた	若林 正恵		雪	相宗 真理
[市議会議長賞]	租詠詩	目片 丹楓		舞姫	安藤 貢子
[中日新聞社賞]	飲中八仙歌	北川 依子		雪の玉水	沼波 弘子
[米原市商工会長賞]	姚丞の詩	山川 順園		漢詩句	辻川 智江子
[佳 作]	李白詩	森 幸子		この道	嶋路 正子
[佳 作]	良寛詩	大澤 美津子		李白詩	上條 翠波
[佳 作]	無事是吉祥	橋本 美代子		紅花	北村 芙美子
[佳 作]	古今和歌集仮名序文	細溝 恵		花の二句	保積 隆夫
[佳 作]	対句禅語	谷村 治子		袁凱詩	猿山 水螢
[佳 作]	舟次鐔津	長谷川 桂園		于謙詩	土屋 清妍
[佳 作]	百人一首	川端 昭子		陶澂歌	中村 清婉
以下入選	千字文の一節「学優登仕」	福居 順		袁凱詩	山口 朝代
	五字句	西尾 辰之		袁凱詩	山本 玉禾
	千字文の一節	後藤 如穂		漢詩句	橋本 美代子

写真部門

審査員 落井 俊一（日本風景写真協会会長・日本写真家協会会員）

■審査総評

年々良くなっている感じで、楽しい審査会でした。写った写真でなく作者の気概が伝わるインパクトのある、撮った写真が増えてきたことは大変うれしいことです。もう少し暗くしたら…とか、この場所では縦位置で撮った方が良いかも…とか、惜しい作品も数多くありました。

自家製プリントの中には彩度を上げすぎたものが多く有りました。毎回言っていることですが、彩度の上げすぎは綺麗を超えてケバイ！厚化粧のような飾り過ぎの感じを受けますし、シャープネスのかけ過ぎも同じです。自然にナチュラルに行きましょう。

■市展賞 『波模様』

夕陽までにはまだ随分時間があり日が高い時間帯での撮影で、この時間帯ではカメラマンも少なく、独り占めの感じでしょうか？よくこの時間帯にこの場に居たものです。

きれいなさざ波に強い斜光が当たり、波紋を浮かび上がらせています。広角レンズでその波紋をより一層強調し、沖の橋杭岩を小さくしたのも主役をはっきりさせています。波紋も臨場感も狙い通りに成功しています。

■教育長賞 『恐竜現われる』

この作品を見た瞬間に龍をイメージしてしまいました。強風で倒れてしまった倒木でしょうか？左は桜の木のように思いますが、桜並木の1本だったのでしょうか。画面に見える物すべてをシルエットにしたことで、いろいろなイメージを抱かせてくれるインパクトのある作品です。撮影のポジションもカメラの向きも申し分ない秀作です。

■市議会議長賞 『育む』

鴨の親子のほほえましいチャンスを見事に捕らえました。小鳥のせわしなく動く様子まで見えています。真上からの撮影で水中での足の形が見える写真はそうそう見られるものではありません。両足が外へ広がっているとは知りませんでした。親子とも同じ様に広がっているのも、この形が普通なのでしょう。学術的にも貴重な写真のような気がしてきました。

■朝日新聞社賞 『新緑の頃』

強烈な陽の照りつける庭先の緑を背景に、女性が立て膝気味にこちらを向いて座っているのですが、見た瞬間にドキッとする写真です。よく見ると服は着ているようでホッとしました。影絵にしたことで強烈なインパクトの有る写真となり、女性の口から発する言葉に耳を傾けたくくなります。よく磨かれた縁側の緑の映り込みも引き立て役に一役です。

■米原観光協会賞 『御輿還御』

夕闇の中に行く御神輿をスローシャッターで躍動感をだし、担ぎ手の表情はストロボで止める！とテクニックを駆使しての撮影です。御神輿の動きはブレすぎたり止まったりで、何枚も撮影した中のベストワンショットなのでしょう。すべてがベストタイミングで引き込まれそうな臨場感のある写真です。次のショットを見たくくなります。

選 別	作品題名	氏 名	選 別	作品題名	氏 名
[市 展 賞]	波模様	宮崎 真一	入 選	S字カーブ	岩井 文雄
[教 育 長 賞]	恐竜現われる	福原 良一		笑ってる!	小杉 末男
[市議会議長賞]	育む	巨椋 元雄		晴れ間	小杉 末男
[朝日新聞社賞]	新緑の頃	大前 岳雄		こどもの日	西川 政夫
[米原観光協会賞]	神輿還御	福原 茂		黄昏時の舟波	谷口 源太郎
[佳 作]	火炎の舞	田川 輝子		干潟	北川 蓉子
[佳 作]	蓮池	田中 直夫		雪化粧	武藤 繁一
[佳 作]	春うらら	七里 藤吾		五月晴れ	七里 藤吾
[佳 作]	細い長い道	小倉 富士夫		水煙	巨椋 元雄
[佳 作]	月明の鏡池	武田 繁康		藤のれん	澤 建亞
[佳 作]	神秘	岸田 峯子		観覧車	小川 省吉
[佳 作]	一心不乱	山本 紀夫		朝陽射す干潟	小川 省吉
[佳 作]	新緑の滝	村居 幸路		冬朝焼けの余呉湖	武田 繁康
[佳 作]	頼りになる船頭さん	中村 久和		光彩の水面	香水 秀和
[佳 作]	春の舞	横田 正雄		夕映えの妖精達	青山 敬子
以下入選	天野川遊園	長原 武夫		爆走	青山 敬子
	裸参り	小松 弘子		森の彩	大津 敏
	春景	小松 弘子		奪い合い	中川 敏和
	京を駆け巡る	松宮 廣規		かわいい小動物	中川 敏和
	ひかりの行路	中村 久和		光のハーモニー	石丸 孝
	静寂	谷村 逸生		「絆」元気に育て	伊藤 晋
	朝露に濡れて(コウノトリ)	藤川 正喜		錦秋を刈込む	伊藤 晋
	源流の朝	中川 寅男		冬の序曲	山本 紀夫
	二人の絆	中川 寅男		北湖の蓮	福永 善次
	しぶき氷	狩野 治		台風襲来	村居 幸路
	生活路	石川 大訓		秋の湖北路	小川 きく
	凍てつく乙女滝	福原 良一		夕照	宮崎 真一
	閃光	丹部 まき子		静寂を破り突進	村田 朝男
	コーヒータイム	馬淵 捨次郎		火祭 滝の如く	北村 秀世
	夜明け前	北川 良治		舞う	横山 義淳

(写真部門)